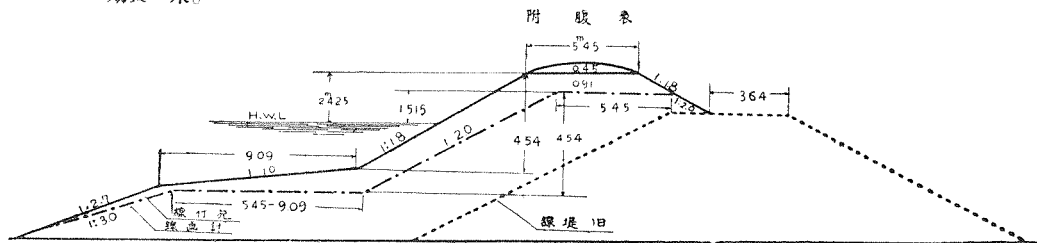


(1) 三柵閘門 伏見市外金井戸島地先淀川右岸、扉室幅員8米、閘室幅員11米、有効長83米。

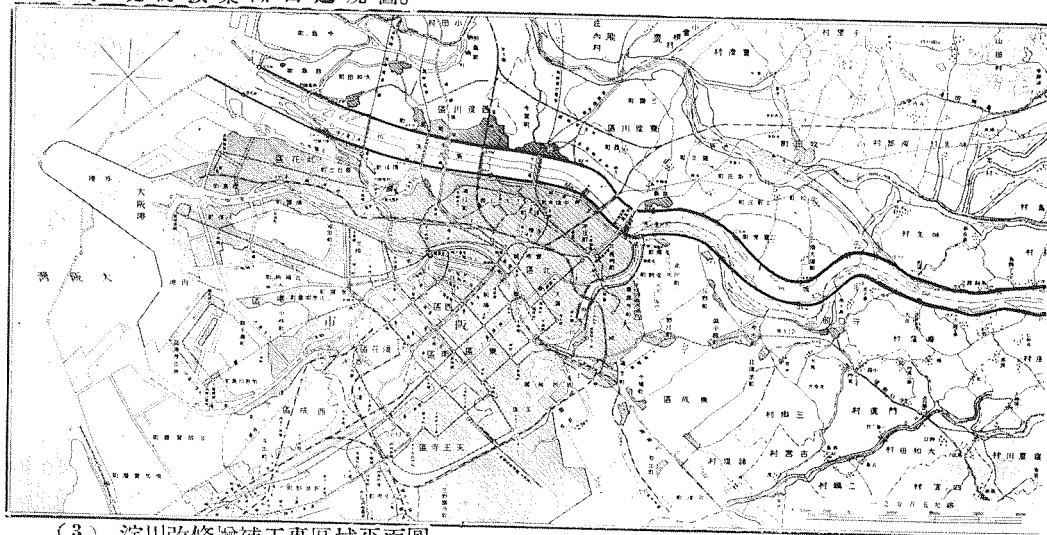
淀川改修増補

大正七年起工以來一千三百九十餘萬の工費と十有三年の日子を費し、幾多の障害、難工と苦闘を續けて來た淀川改修増補工事が、此の程竣成して去十月四日盛大なる竣功祝賀式が擧げられた。

古來治水の難河として られて來た淀川は水災頻發、濁流廣野に怒漲し、生靈と財産とを流亡せしめたこと幾許なるを知らず、既に紀元九百八十三年、仁德帝は茨田の堤を築き給ふた程であつた、以て民生の水に苦しみ來つたこと如何に久しきかを知ることが出來やう。爾來一千數百年、淀川治水の業屢々起つて反覆されたが、一として成果を擧げたものなく、徒らに洪水の暴威を逞ましようするに委せて來たが、明治の聖代となるに及んで淀川大改修を叫ぶ聲愈々高くなり、政府も亦その急務なることを察して、故沖野工學博士等に之が調査計畫をなさしめ、



(2) 堤防擴築斷面定規圖。

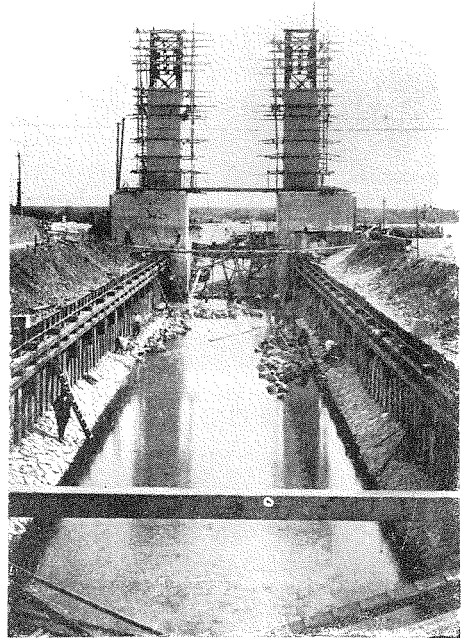


(3) 淀川改修増補工事區域平面圖。

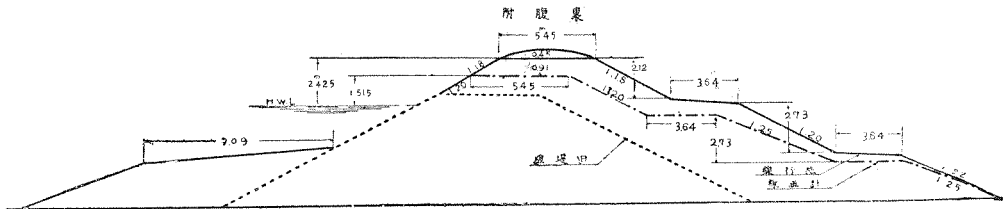
工事竣功す

明治二十九年帝國議會の協賛を経て工費九百九萬餘圓を以て十ヶ年繼續事業として根本的治水策を實施するに至つた。實に此の工事は近代に於ける我國治水工事の濫觴とすべく、之が爲河川法の制定を要するに至つたと云はれてゐる。

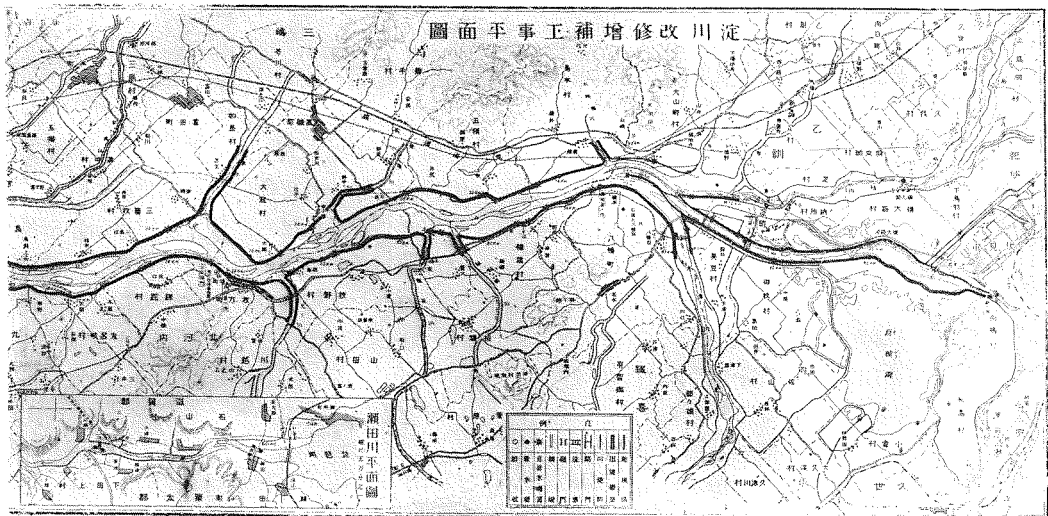
此工事は中途日露戰役その他の事由に依つて工期五ヶ年を延長し百萬の工費を追加して明治四十三年竣功を告げ、治水の實を擧げることが出来たけれども、大正六年十月一日の稀有の大洪水に際會して右岸三島郡大冠村大塚及支川數個所に破堤を生じ、再び慘禍を蒙つたので、政府は之が増補の急を要するを認め、大正七年以降六ヶ年の繼續事業として工費五百九拾七萬圓を以て京都府伏見市觀月橋以下海に入る區間に對し、淀川改修増補工事を起工するに至つた。然るに其後歐州戰亂、財政上の都合、追加工

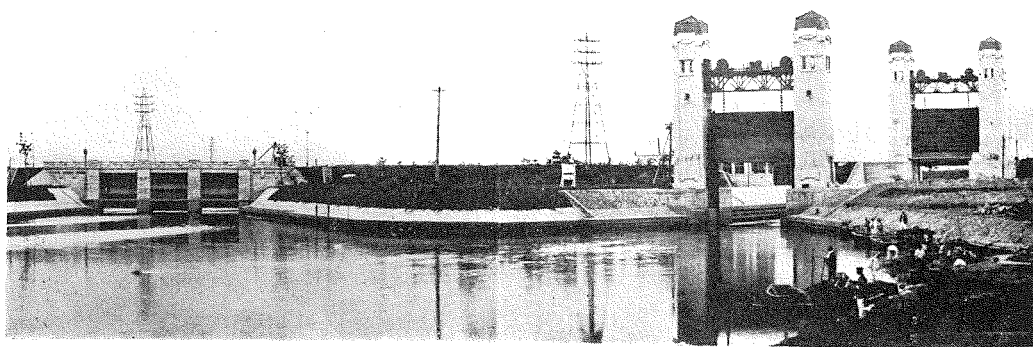


(4) 工事中の三柄閘門。

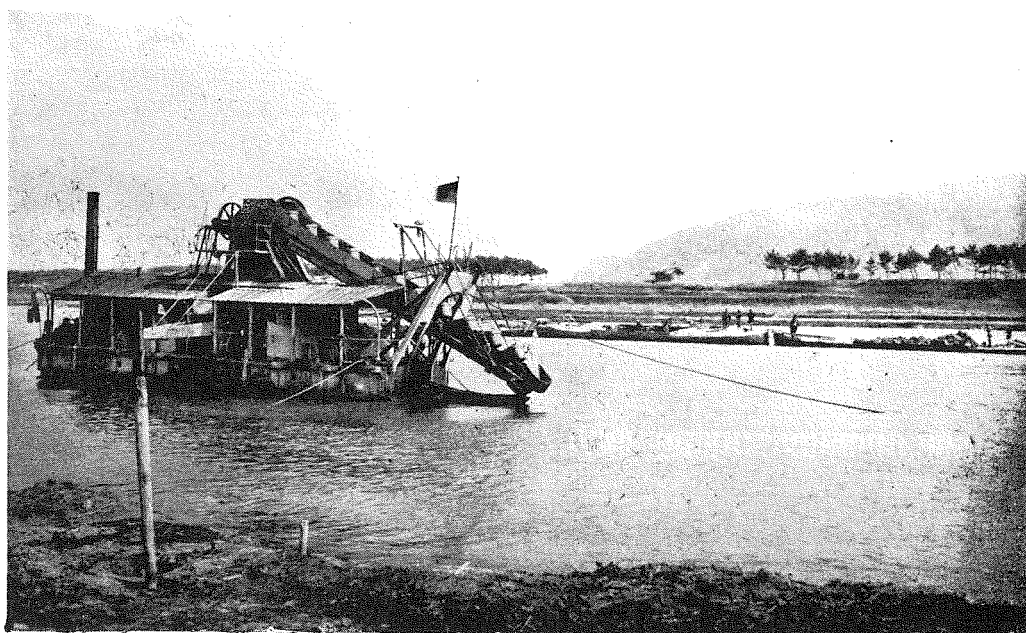


(5) 堤防擴張斷面定規圖。





(6) 三栖開門及三栖洗堰全景。



(7) 浚渫船、百噸掘助鏈式。

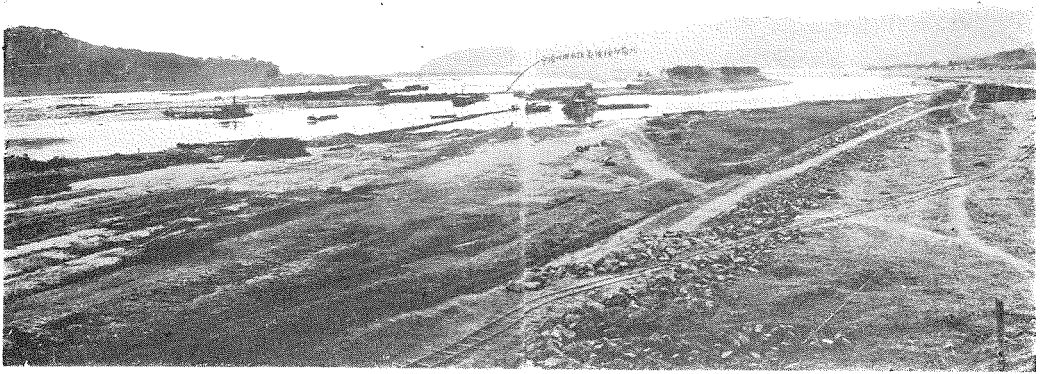
事等に依り工期八ヶ年を延長され、工費も亦一千四百五十七萬餘圓に増額せられ、以て今日に至つたものである。

更生の淀川は茲に舊態を改めて巨堤蜿蜒十數里に亘り、將來之れが愛護の徹底と水防の完備を期し、周到なる維持を怠らなかつたならば、沿岸二府二縣の郷土を護り、長へにその福趾を増進することになるであらう。

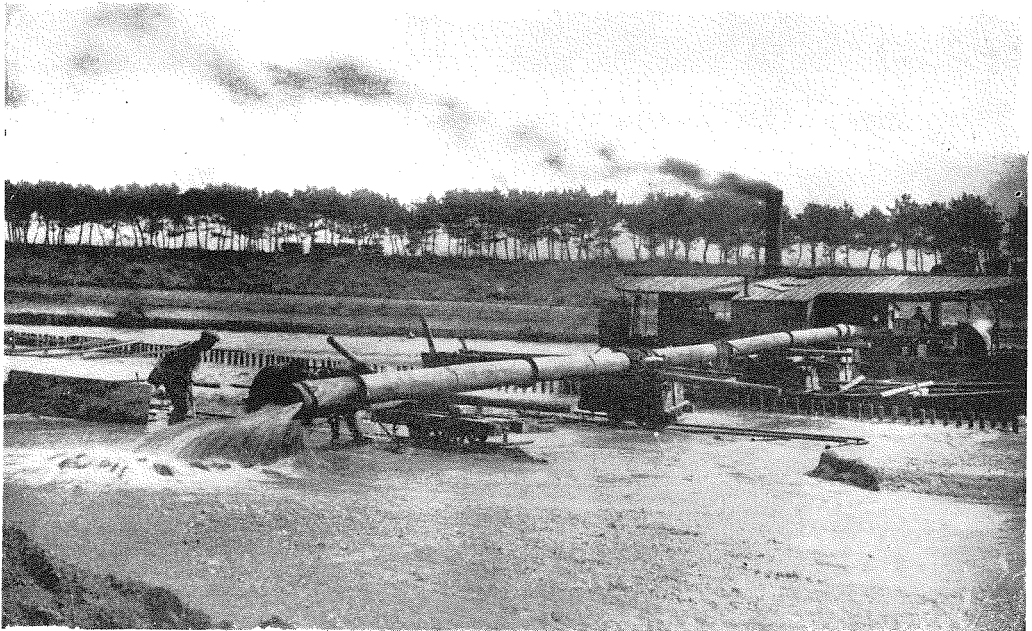
今此記念すべき工事の概要を掲げて見ると淀川改修増補工事は、先に淀川改良工事に於て河道の匡正河幅の擴張放水路の併鑿、派川

の締切等主要なる大工事は殆んど完了してゐたので、大體に於て改修の基本に觸るゝ事なく大正六年十月大洪水の慘害に鑑み、京都府伏見市觀月橋以下海に至る全川に對して改修増補を加へたるもので、其改修幹川延長46軒餘に及び、其主要なる工事を大別すれば次如くであつた。

- 1 幹支川堤防の擴築
- 2 中洲の掘鑿
- 3 伏見浸水防止
- 4 三川合流付替



(8) 三川合流附換工事全景。京都府八幡町附近宇治川流末舊水路最後の縮切狀況。

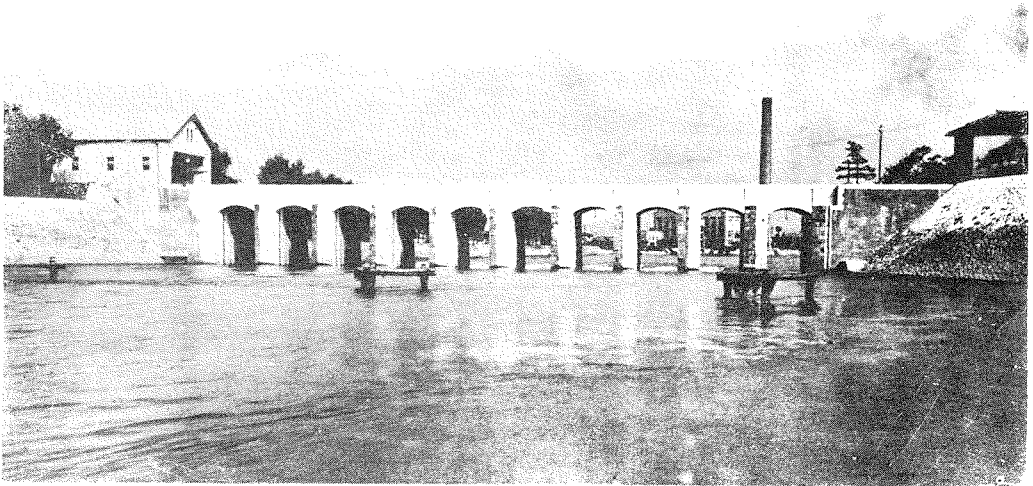


(9) 三川合流附換工事。50噸掘ポンプ式浚渫船。

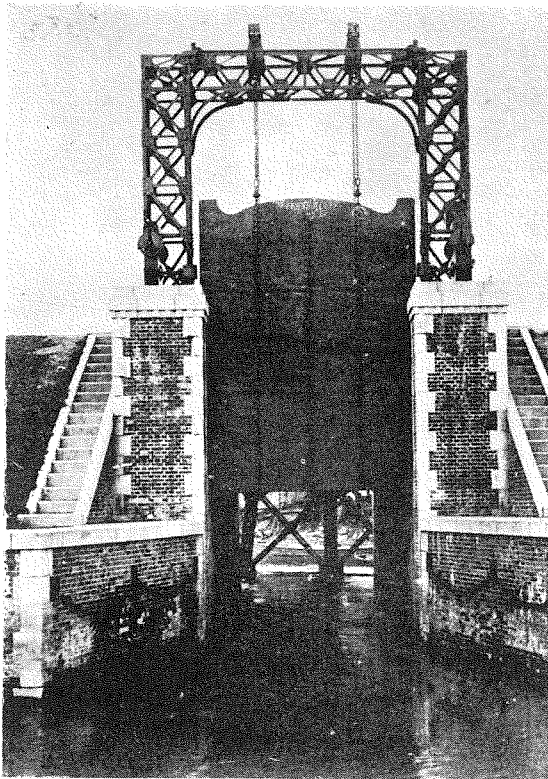
工事は大正七年五月一日調査測量を開始し改修區域全般に亘る高低並に平面測量及流量の觀測、地質の調査を行ひ同八年二月十五日之等を完了、二月一日大阪府北河内郡枚方町に改修工區事務所を開設し、人員機械の整備を計ると共に工事實施に着手した。着手の順序は大正八年枚方三ヶ枚方面を第一とし五領大冠樟葉八幡庭窪等之に次ぎ、牧野烏飼豐里方面に及ぼし、十一年度に至り宇治川筋伏見方面を加へ、十四年度新淀川方面、十五年度三川合流方面、最後に長柄毛馬方面に及ぼし

た。即ち工期の前半は本工事の主要目的たる堤防擴張並に掘鑿工事に主力を注ぎ、後半に入つて伏見防水工事三川合流工事を施工し、其他殘餘の築堤、特種附帶工事を進めたのである。

築堤施工の延長は109.4浬で、内幹川86.3浬、大阪府に屬するものは77.9浬、京都府下31.5浬之を左右兩岸に分てば左岸55.5浬、右岸53.9浬となる。築堤土量は昭和四年度末に於て約882萬立方メートルで、内掘鑿利用土484萬6千餘立方メートルに支出した工費は255萬餘圓に及ぶ。



(10) 補修せる毛馬洗堰 大阪市東淀川區長柄濱通地先、徑間3.6米10連、橋脚の繼足幅2.1米、高7米



(11) 平戸樋門 伏見市外堀内村地先淀川右岸幅3.6米、高5米、延長10.1米。

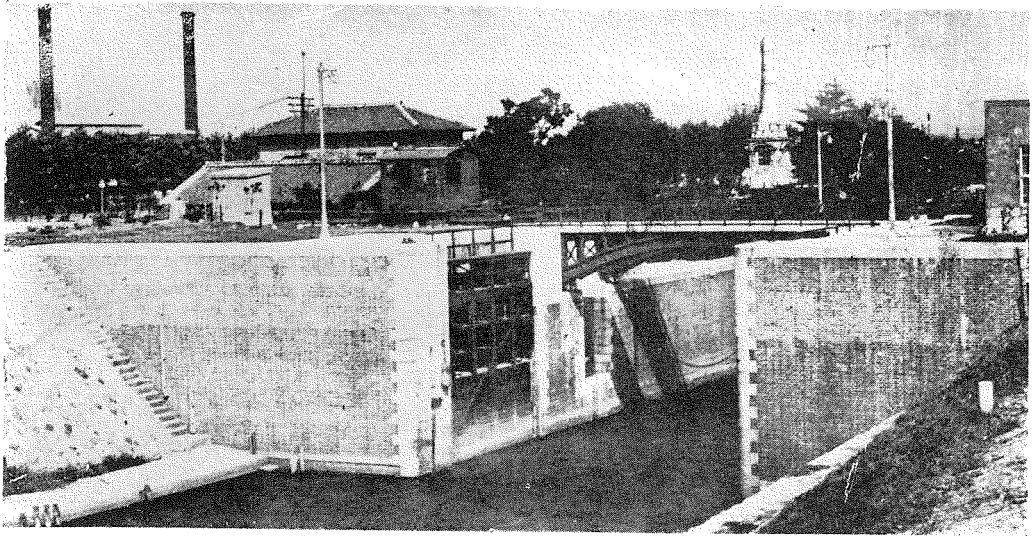
築堤は將來沈下を見込み計畫馬踏高以上0.9米の餘盛とし、小段も相當の餘盛を施した、その斷面は第2圖及第5圖に示す如くである。

堤脚保護の爲施工した護岸工事は其工法各種に亘つたが主として沈床根固抗打石張護岸とし、水制工事は在來制水工事の破損甚だしく水流に著しき變化を來す虞れあるものに對し舊態維持の爲施したものと、河岸の缺壞を防止し、其他洪水敷掘鑿跡保護の爲、在來水制を連續する爲等に施工した。

起工以來掘鑿を施工した箇所は462に及び其上量昭和四年度に於て總計567萬6千餘立方米、支出工費172萬7千餘圓に達した。

特種工事は、京都市紀伊郡堀内村宇彈正島平戸樋門、同伏見町宇平戸に平戸陸閘、同向島村宇金井戸島三柄洗堰、その下流現在高瀬川合流口に新設の三柄閘門。毛馬洗堰補修、毛馬第一閘門補修、長柄運河給水樋門、伏見市景勝宇治部地先の高瀬樋門、等である。

附帶工事としては用惡水樋門の繼足又は改築、用惡水路付替、道路及橋梁並に軌道橋の昂上等で、昭和四年度末迄に施工の箇所58に及び工費219萬8千餘圓、内國庫補助



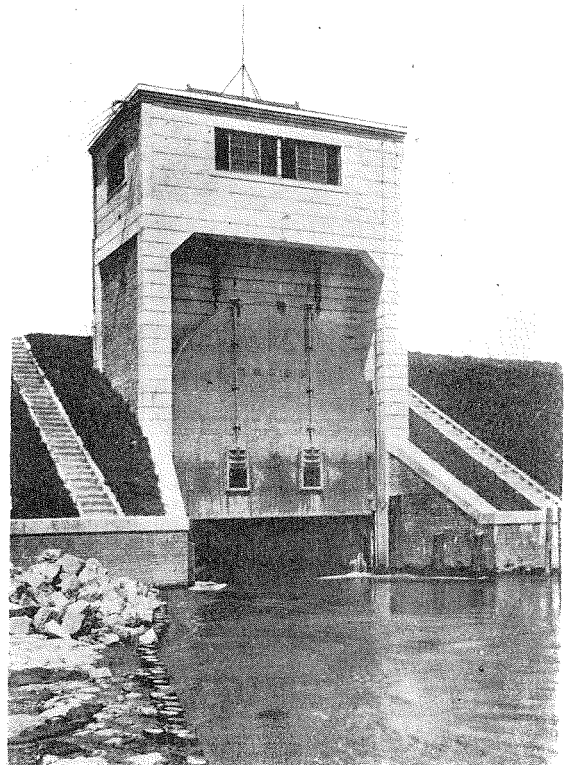
(12) 毛馬第一閘門 大阪市東淀川區長柄濱通地先。

額が 140 萬餘圓であつた。此工事の主要なるものは京都市疏水放水路工事、淀川左岸統一用水路工事等である。

起工以來昭和五年三月末までに至る總支出工費 1,394 萬餘圓、工期十有三個年を費して茲に功成る。堤防の擴築は決堤の患を絶ち、中洲の掘鑿は洪水の疏通を快くし、三川合流の付替は宇治川の洪水を輕減し、更に伏見の防水工事、樋管の改築合同等、今や洪水除害の効を完ふす。頻年の脅威を脱却し得て惠澤永く後裔に布くものとすべきである。

利根川大洪水被害高表

明治 31年 9月	1625 萬圓
明治 35年 9月	964 萬圓
明治 39年 7月	992 萬圓
明治 40年 8月	1472 萬圓
明治 43年 8月	4168 萬圓
大正 3年 8月	1069 萬圓
以上六回合計	10290 萬圓
改修工費總額	6340 萬圓



(13) 附帶工事神崎川樋門川表正面、大阪府三島郡味生村地先淀川右岸。巾 5.5 米高 5.6 米延長 12.4 米